

# 平成27年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成28年 月 日

研究・研修課題名	認定理学療法士取得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	理学療法部門（リハビリテーション部）
研究・研修責任者名（所属）	川本晃平（リハビリテーション部）
共同研究・研修者名（所属）	川本晃平、今岡圭（リハビリテーション部、理学療法士）

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的

日本の理学療法士が所属する日本理学療法士協会には生涯教育制度が設けられている。平成22年に見直された新制度では、新人教育プログラム終了後、新たに専門領域研究会に登録し、卒後年数と指定の研修会、講習会、学術活動などで各認定条件を満たし、症例報告および試験に合格することで「認定理学療法士」の資格を得ることができる。さらに指定研修と試験を受けることによって「専門理学療法士」の資格が与えられる。またこれらを更新するためには定められたポイントの取得が必要である。

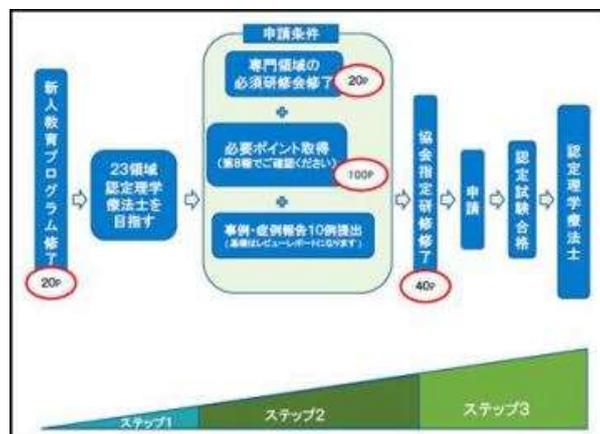
本研修会の目的は、「認定理学療法士」取得のための認定必須研修会に参加するためのものである。

### ②方法

当院リハビリテーション部に所属する理学療法士が指定の講習会および学会に参加し、必要なポイントを取得した後、「認定理学療法士」の試験を受験する。

以下に認定理学療法士の資格取得の概略を示す。

- 1) 新人教育プログラムを終了する
- 2) 必須研修会で20ポイントを取得する
- 3) 各専門領域の指定研修会で40ポイントを取得する
- 4) その他、学会や関連研修会に参加し100ポイントを取得する
- 5) 症例報告：レビューポイント10例を提出する
- 6) 試験：認定試験を受験し、試験合格と申請書審査に合格をもって認定理学療法士となる



### ③成 果

当院リハビリテーション部の川本理学療法士が、認定理学療法士 スポーツ理学療法 試験資格取得のために平成 27 年 8 月 30 日に東京で開催された認定必須研修会に参加した。研修内容は部位疾患別のスポーツ理学療法を中心に、スポーツ外傷予防への理学療法の活用、スポーツ理学療法のトピックスで構成され、当院にてスポーツ選手の理学療法を行う上で非常に参考になった。特にスポーツ障害の評価を行うに当たって疼痛部位の評価のみではなく、全身を評価することの重要性を再認識することができた。

本研修会に参加し、認定理学療法士試験を受験するためのポイントを取得することができ、ポイント基準を満たしたため平成 28 年度開催の試験を受験したいと考えている。

当院リハビリテーション部の今岡理学療法士が、平成 27 年 10 月 15 日から 16 日に東京にて開催された認定理学療法士 呼吸 試験資格取得のために第 25 回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会学術集會に参加した。現在当院での呼吸器疾患患者に対するリハビリテーションは呼吸器内科から依頼される患者だけではなく、様々な診療科から依頼がある。そのため、呼吸器疾患に対するリハビリテーションの最新の知見や機器の情報を得ることが必要となる。今回の学会では「ネーザルハイフロー療法の臨床的有用性と課題」や「呼吸管理をめぐる最近の知見」などの講演を聴講するとともに、呼吸筋力計や在宅酸素の遠隔モニタリング機器などを体験することができ、今後の導入を検討するに当たっての情報を得ることができた。

本学会参加により、認定理学療法士試験を受験するためのポイントを取得することができた。

当院リハビリテーション部の川本理学療法士が、平成 28 年 2 月 21 日に東京にて開催された認定理学療法士 運動器 試験資格取得のために認定必須研修会に参加した。研修内容は膝関節、肩関節、股関節疾患の理学療法、EBPT、クリニカルリーズニングで構成されていた。手術後の理学療法の展開、評価方法や治療手技について学ぶことができた。リハビリテーションの対象として運動器疾患は多く、当院でのプロトコル作成や患者説明用の資料作成に活かすことのできる内容であった。

本研修会に参加し、認定理学療法士試験を受験するためのポイントを取得することができたため、来年度以降の試験を受験する予定である。

日本理学療法士協会の会員数は 91,092 人であるが、認定理学療法士の資格保有率は 0.8%という状況である。大学病院に勤務する理学療法士として高い専門性を確保する必要があり、より上質な理学療法を提供できるよう今後も自己研鑽に努める必要がある。そのためにも認定理学療法士の取得は必須であると考えられる。